

筑波山登山

金成氏主催の
錦村長金成氏主催同村役場吏員及同村小學校職員一行二十余名は三十日午前八時植田驛發列車で茨城縣筑波山に登山し同日歸村した。

▲稻増收品評會

警崎村農會主催稻増收品評會は八日午前九時開始、審査は大山技師出張行ふ等雨天の際は十日に日延べすると、因に同村の稻作は本年は非常の豊作で村民大喜びである。

▲泥棒青年捕はる

安達郡戸澤村大字南戸澤生れ當時住所不定無職齋藤巖(二一)は去る八月初旬二本松警察署管内で自轉車一臺を窃取しそれに乗つて石城地方に入り込み九月二十八日箕輪村大字大利小澤源太郎方か。ゴム底足袋外十点を窃取し又同月十二日夜部内箕輪村大字大利渡邊留吉方から木綿襪巻一枚代金三圓を窃取したのを平署森、二瓶の兩刑事に捕はれ十月三十一日平検事局に送られた。

神宮競技場から

選手 花 澤 生
廿九日福島縣神宮出場選士一行十九名は無事に明治神宮外苑日本青年會館に着きました。各選士は熱に熱を加へて意氣のすこく今はたゞ奮闘をまづばかりです。この神宮競技大會を目指して大東京にすべりこむ多数の人の群は雪崩をうちつゝ進む難路です。競技場は七萬の見物人を目の前に見てしばし氣を奪はれた程です。今は練習して青山師範競

技場から歸つて来た所です。日本青年會館は三千人を宿泊します。一泊料四十錢、朝食二十錢、晝餐二十五錢、夕餐三十錢です。先は奮闘奮闘をちかひます。御通信まで。

長途騎乗

(第五信)

柳田彦之進
廿一日(雨後曇)午前八時藤枝町出發大井川の渡渉を企つ朝顔日記に名ある老松の元に水深を兎極め馬を入れゆるゆると乗切る、石城郡の人間の膽力、馬匹の優良を示さん爲めな。小夜の中山の夜泣き石を撫しつ、午後三時三十分掛川に着す。

讀者と記者欄

(問) 四年前妻を迎へ二人の子供もあつたが、二番目の子が生れてから五十日目に、妻は私の寝てゐる間に身廻りの物を携へて家出してしまつたので、乳のみ子を抱へ仕事も出来ず貧ひ乳に其日を送つて居る有様でした。勤め先の主人の好意に依り子供を里子にやり家を仕舞つて主人方に身を寄せて居ます。實は家出後直ぐ實家へ手紙でかへしてくれぬやうに申し送りします。實家では當方に来ないといふて来ましたが、近所の人の話によると折々途中で見受けるのと、果してさうとせば、實家も承知の上らしく思ひます。主人も私の實家で怒らしめてやつた方がと申しますけれども、子供がふびんに思ひます。如何したものでもせう、妻の籍は既に入つて居ます。猶妻は是までも二三回家出したことがあつたので

驚いた!!!

こうまで安いとは
加納活版所の印刷物!!

少年に與へる詩

飯村 閑舟

少年よ
こも愛らしき
ほくそむ林檎のやうな
しとやかなりし
その頬よ。
わづらしきかな
われ君を
かくまんと
あせりしものを
きざな夕焼けに
ほがらかな頬をもて
静かなる
るみあるを見る
されど君や
そぞろ思ひや
母の、悶えは君に
父の、悶えは君にそよぎ
かく厚かりしものを
そびやかに深く思へや
わが愛と共にたゞえて
父母を、あがめつゝ
返り咲く心を
結び給へや。

東京の二越來る

平町住吉屋旅館本店に於て
十一月五日、六日の二日間(午後五時より)

毎度格別の御引立を蒙り、誠に有難く厚く御禮申上げます。陳者今般上記の通り、呉服大物及び雜貨等、東京流行の粹を蒐め、陳列販賣致します。尚洋服別談の御注文に應じ度熱線なる裁斷師を同伴致します

三越呉服店

牛肉大投げ賣り

並肉	百々	金三十錢
上肉	同	金五十錢
ロース	同	金七十錢
ヒレ	同	金九十錢

平町停車場前(平劇場入口)
深谷牛肉店
電話五二四番

常磐第一ノ磐城炭礦ノ石炭

石炭とコークスの特長

① 品質ノ優良
② 配達ノ迅速
③ 配達ノ迅速

ドーシテ、アンナ良イ品ヲ、ソシテニ安ク賣ルカ驚カレ、一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭トコトクスノ特長デス

値段正十貫目一俵金六十五錢也

平町前
電話三三七番
阿部石炭商店

カキ貝御料理

強烈なる滋養と美味を以て例年御期待の相始め申候

カキフライ	一人前	三十錢
カキ	なべ	五十錢
カキ	よせなべ	五十錢
スガキ	同	廿五錢

洋式宴會
仕出し
一の井
電話一六七番

支那大補丸

特約店 平町五丁目 山野邊藥局

印刷納加
活版電話
所版話電
番二〇五番九〇四